

第 21 回ミツバチ科学研究 会に参加して

光畑 雅宏

玉川の丘を離れて、もう 3 年近くの時が過ぎた。私は、毎年この会に、年始に開かれる親戚縁者の集いに行くような心持ちで、出席している。「ミツバチ科学研究会」、この会に出席しないと、私の一年はスタートしないといても過言ではないかもしれない。

玉川学園構内の敷地の中で駅から一番遠い一角にある農学部第 2 校舎。この建物の 3 階から校舎内に入り、5 階へと上っていくと、見覚えのある人達のほころんだ笑顔が私を迎えてくれた。

今年は最初の発表から白熱した論議が展開された。午前中は在学 4 年生の研究成果発表。浅井明子さんによる「ミツバチは本当に“8 の字ダンス”で距離を伝えているか？」は、ダンスを追従したハチ（8 の字ダンスを踊っているハチの後をついて回り、蜜源までの距離を読み取ったと思われるハチ）の、蜜胃内容物を測定して、その量が飛行距離と相関が得られているかというものであった。私が拝見したところ、きれいなデータで、ダンスがそれなりに情報伝達

手段として用いられているように思えたが…

質疑応答での、大谷剛教授と佐々木教授の討論はその発表内容を越えた内容にまで達し、さながらウエナーとフリッシュの代弁者的構図であった。

次に行われた高橋純一君の「DNA から見たミツバチ女王蜂の多回交尾」は、これもまた非常に内容の濃い講演で、年々上がる学生のレベルには舌を巻く思いがした。

近年における昆虫学の著しい進歩は DNA のレベルでの解析技術の進歩によるところが非常に大きいのではないだろうか。学会における発表にも DNA 解析を含んだ研究がかなりの割合を占めるようになってきている。玉川大学昆虫学研究室においてもご多分に漏れずその波は押し寄せているようだ。

この 2 題の発表の後に行われた、腹ごなし前の松香教授による「第 4 回アジア養蜂研究協会大会の報告」と吉田教授の「第 13 回国際社会性昆虫学会報告」についてはミツバチ科学誌上にご両名が詳しい内容を報告されているので、そちらの方を読んでいただきたい。

また、このときに告知された IBRA 主催の熱帯養蜂会議とアジア養蜂研究協会大会の合同大会と、ついに実現する次回第 14 回国際社会性昆虫学会が日本での開催決定（2002 年北海道大学）の話題は、今から胸の踊る思いだ。

わくわくしながら午後の部へ突入。午後からは、まず、佐々木教授の「ミツバチコロニーにおける採蜜活動調節の機構」と題しての特別講



図 1 発表する浅井さん



図 2 質問に答える高橋君



図3 講演中の佐々木教授

演が行われた。佐々木教授は現在、脳研究プロジェクトの中心としてもご活躍されていることもあって、ミツバチの脳細胞発達機構に関する話も交えながら、非常に興味深い、また勉強になるご講演であった。今更ながら、ミツバチを含め、自然界の巧妙かつ複雑なシステムと無駄のなさに感嘆する思いで講演を聞かせていただいた。それに比べて我々人間は…。すでに自然界のサイクルから逸脱してしまった我々は、無駄と矛盾だらけの堂々めぐりの中に埋没してしまっているような気がする。

このような中で生活しなければならない人間社会でストレス、生活習慣病（成人病）は増加する一方であろう。このような背景を一端として、現在の健康食品ブームがあるに違いない。中でも、ミツバチの作り出すローヤルゼリー、プロポリスは、その先駆けとも言えるのではないだろうか。2つ目の特別講演は陳瑞東先生による「ローヤルゼリーの社会的意義」で、生



図4 講演中の陳先生



図5 熱気につつまれた会場

理学的見地から、ローヤルゼリーが及ぼす人体機能への効果を分かりやすく説明され、立証データの不足など、今後の問題点も指摘されていた。おそらく、会場にご列席の皆さんは、「自分達人間の体よりも、昆虫の体の方が詳しい。」という方のほうが多かったのではないだろうか。皆さん陳先生の話に聞き入っておられた。

そして、意見交換・総合討論、高橋君のミツバチの多回交尾についての質問がさかんになされていた。理論値での最適交尾回数と野外における交尾回数が見事に一致したことを証明した彼の発表に、大きな関心がよせられたのは無理もないことだろう。ミツバチの人工授精技術の進歩を予感させる総合討論であった。

「しかし、今回のこの会に岡田一次先生のお姿が拝見できなかったのが残念だった。」そう思いつつ、この原稿を書いていた3月18日、玉川の卒業生でもある私のもとに訃報がもたらされた。私の勤め先には、岡田先生から寄贈された論文、書籍が「岡田文庫」と名づけられ保管されている。大学を卒業してからも、先生に指導していただいているような気持ちで、調べものの時には必ず「岡田文庫」を探す。その棚に向かいながら、ご冥福をお祈りすると共に、これからもハチに携わりつづける決意を新たに、充実した1年を過ぎ、来年のミツバチ科学を笑顔で出席したいと思っている。

(〒500-8468 岐阜市加納桜田町 1-1 アビ株式会社)